

応募校・団体のご紹介

たくさんのご応募、ありがとうございます！来年度のチャレンジをお待ちしています。

都道府県	学校・団体名
北海道	豊浦町立豊浦小学校
北海道	北海道標津高等学校 生徒会
北海道	北海道雨竜高等養護学校
青森県	青森市立東中学校
岩手県	夢団～未来へつなげるONE TEAM～
宮城県	石巻市立大谷地小学校
宮城県	山元町立坂元小学校
宮城県	登米市立津山中学校
宮城県	宮城県岩ヶ崎高等学校科学部
宮城県	南三陸高校防災クラブ
福島県	いわき市立好間中学校
群馬県	群馬県立松井田高等学校
埼玉県	久喜市立砂原小学校
千葉県	市原市立五井小学校
長野県	松本市立波田小学校4年1組
愛知県	愛知工業大学名電高等学校 防災チーム MDPT
愛知県	名城大学附属高等学校
愛知県	至学館大学 仲間をまもり隊
三重県	松阪市立米ノ庄小学校
三重県	名張市立北中学校
三重県	三重県立北星高等学校
三重県	羽津地区連合自主防災会
滋賀県	En
京都府	南丹市立殿田小学校
京都府	京都府立木津高等学校
京都府	京都府立南山城支援学校
大阪府	関西大学北陽中学校
大阪府	大阪府立三国丘高等学校 SGH4班
大阪府	大阪府立出来島支援学校
大阪府	大阪府立富田林支援学校
兵庫県	神戸市立真陽小学校
兵庫県	福崎町立田原小学校

都道府県	学校・団体名
兵庫県	神戸市立長田中学校
兵庫県	神戸市立福田中学校
兵庫県	東洋大学附属姫路中学校生徒会
兵庫県	神戸市立科学技術高等学校 環境防災班
兵庫県	神戸大学附属中等教育学校 DR3
兵庫県	D-PRO135° 明石高専防災団
兵庫県	兵庫県立伊丹高等学校
兵庫県	神戸松蔭大学 食物栄養学科 有志
兵庫県	キッズわくわくプロジェクト
兵庫県	協の浜ふれあいのまちづくり協議会
兵庫県	学校法人七松学園 認定こども園 七松幼稚園
兵庫県	TEAM-3A
兵庫県	ミラクルウィッシュ ジュニア防災リーダー
兵庫県	播磨町消防団 女性分団
和歌山県	和歌山県立白高高等学校附属中学校
広島県	呉市立片山中学校
山口県	阿武町立阿武中学校
山口県	山口消防防災探究会
徳島県	こどもプロジェクト1・2・3
香川県	穴吹学園高等学校
高知県	芸西村立芸西小学校
高知県	太平洋学園高等学校
高知県	高知県立窪川高等学校
福岡県	北九州市立石峯中学校
福岡県	DPOMs
熊本県	熊本県立熊本農業高等学校
大分県	大分県立情報科学高等学校 デジタル創造科(3年) 課題研究H班
宮崎県	日向市立細島小学校
宮崎県	延岡市立北浦中学校
宮崎県	西都市立三財小中学校
宮崎県	門川町立門川中学校SPS
宮崎県	宮崎県立門川高等学校



- 主 催 兵庫県、毎日新聞社、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構(阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター)
- 後 援 内閣府、総務省消防庁、文部科学省、国土交通省、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、関西広域連合、ひょうご安全の日推進県民会議
- 協 賛 (独)都市再生機構

発刊にあたって



兵庫県知事
齋藤 元彦

近年、全国各地で自然災害が相次ぎ、私たちの暮らしにもさまざまな影響が生じています。今年も年始から、鳥根県東部でマグニチュード6.4の地震が発生しました。災害はいつ、どこで起こるか分からないからこそ、日常の備えを確かなものにしていくことが、これまで以上に重要になっています。

一方で、阪神・淡路大震災から30年以上が経ち、震災を知らない世代が増加しています。経験や教訓を次の世代に繋いでいくためには、若い世代が防災を自分事として捉え、地域や学校の中で学びを実践し、さらに周囲へ広げていくことが何より大切です。

今回で21回目となる1.17防災未来賞「ほうさい甲子園」には、全国から111校・団体の応募が寄せられました。自分たちの地域をよく知り、仲間と考え、行動につなげる——どの取り組みからも、「社会の防災力を高めたい」との確かな熱意と創意工夫が感じられます。

防災は、特別な日にだけ考えるものではありません。学校や地域での話し合い、訓練の積み重ね、そして周囲に伝えるための工夫など、日々の取り組みそのものが、地域を守る力になります。今回の表彰は、皆さんが積み重ねてきたその歩みを確かな形として示すものです。

また、活動を支えてこられた先生方、地域の皆様、関係者の皆様に、深く敬意を表します。皆様のサポートがあってこそ、若い世代の活動が広がり、地域に新しい力が育っています。

これからも、一人ひとりが防災意識を高め、地域や学校の防災をリードする存在として活躍されることを期待しています。皆さんの歩みが、未来の安心に繋がっていくことを、心から願っています。

主催者あいさつ



毎日新聞大阪本社
編集局長
長谷川 豊

本年も新年早々、鳥取・鳥根県で震度5強を記録する地震があり、西日本を中心に影響が出ました。私たちが災害列島で暮らしていることを改めて突きつけられました。

1月17日は阪神・淡路大震災の鎮魂の日を迎え、各地で同時に思いをはせる取り組みが開催されました。個人的なことですが、神戸市出身の私は大学3年生の時、自宅で寝ていたところが地震にたたき起こされました。電気、水道、ガスは止まり、大変な被害が次々に明らかになりました。寝るときは家族5人が同じ部屋に集まり、余震のたびに柱などから「ミシッ、ミシッ」ときしむ音が漏れたことは今でも忘れられません。

国内ではその後も2011年の東日本大震災や2016年の熊本地震、2024年の能登半島地震のほか豪雨被害など自然災害が毎年のように起きています。残念ながら、災害が起きることは防ぐことはできません。これまでの経験を次世代に伝え、被害を小さくしていくことこそが私たちに求められています。

1・17防災未来賞「ほうさい甲子園」は、防災教育を通じて震災の経験と教訓を継承することを目的としています。21回目を迎えた今年は5部門に111件の応募が国内各地と台湾からありました。気持ちが入った作品を審査するのはとても難しく、特に上位はあまり差がなかったように感じました。

グランプリに選ばれた関西大学社会安全学部の近藤誠司研究室は、10年以上にわたって全国各地で防災教育を支援するために地域メディアを活用した活動を続けています。とても息の長い活動で、子どもからお年寄りまでご縁ができた人のつながりを深めることがいざという時にお互いの命を守ることに繋がるといふ理念に心から共感しました。

最後になりますが、「ほうさい甲子園」を支えてくださった方々に改めて感謝するとともに、主催者の一員としてこの活動がさらに広がるよう力を尽くしていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

開会のことば



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来
センター長
河田 恵昭

今年度のほうさい甲子園は、北海道から宮崎県までの31都道府県から、そして海外からは台湾の1件を含む、111校・団体の応募がありました。

今年を振り返ってみますと、国内では、大雨や豪雨・豪雪による土砂災害や浸水被害などが各地で起こり、改めて日常の中で備えることの重要性を突きつけられました。

海外に目を向けても、地震や洪水、山火事、猛暑など、多くの地域で深刻な被害が発生し、災害が世界共通の課題であることを強く感じる一年となりました。

このように社会や環境が変わりゆく中で、防災の活動に主体的に取り組んでこられた児童・生徒・学生諸君とその保護者のもとより、防災教育の重要性を認識され、教育活動を進められてこられた先生方や学校関係者、地域の皆さまのご苦勞は、いかばかりかと存じます。

そうした中、その熱意と成果を称える表彰式及び発表会を、ここ人と防災未来センターで行えることを大変うれしく思っています。

今年度は、阪神・淡路大震災から31年となります。「30年」という大きな区切りを越えた今、私たちに問われているのは、「経験を風化させない」という言葉だけではなく、そこから一歩踏み込んで、何を受け継ぎ、何を更新し、次の世代へどんな備えを残していくのかということだと思います。

皆さま方に、本活動の趣旨をご理解いただき、防災・減災の輪がさらに広がっていくことを願っています。

講評

各賞の審査にあたっては、「地域性」「独創性」「自主性」「継続性」といった4つの観点を基準に、選考委員会で審査し、決定しました。防災教育や防災活動の取り組みはどれも素晴らしいものばかりで、これらの中で特にすぐれた47校・団体を表彰することとなりました。

「グランプリ」は、「大学生の部」の「関西大学 社会安全学部 近藤誠司研究室」です。近藤研究室は、災害情報論を専門とするゼミナールで、2014年にスタートしました。地域防災や防災教育を支援するため、全国各地でメディアを活用した研究調査・実践を行っています。校内防災放送をはじめ、防災に関するラジオ放送や各地の防災訓練・研修・イベントなど多彩な活動を継続して実施、支援されています。昨年度の優秀賞受賞に続き、今年は、見事グランプリに輝きました。

ほうさい大賞「小学生の部」は、「宮城県岩沼市立玉浦小学校」です。昨年度はグランプリを受賞されています。東日本大震災で甚大な被害を受けた岩沼市玉浦地区。玉浦小学校ではこの経験を踏まえ、震災から今日まで継続して「命の大切さ」を学び続ける防災教育に力を注いでいます。

ほうさい大賞「中学生の部」は、「三重県松阪市立鎌田中学校」です。海沿いで、校区のほとんどがハザードマップの津波・浸水地域に入る場所に立地しています。総合的な学習のカリキュラムを見直し、「防災」をテーマに探究学習を進めておられます。今回、ほうさい甲子園は初応募でしたが、これら3年目の防災教育活動が評価されました。

南海トラフ巨大地震が30年以内に発生する確率は60～90%、三重県の死者は約2万9千人と予想されています。1人でも多くの命を救う活動を日々模索している姿が認められ、「大震災対策賞」も併せて受賞されています。

ほうさい大賞「高校生の部」は、「ジュニア防災リーダー

クラブ（高校生）」です。これまでに小学生部門、中学生部門での受賞を経て、今回、最も応募校数が多い高校生部門でほうさい大賞を獲得されました。防災学習に留まらず、取り組みの幅も非常に広く、まさに地域の未来を担う人材育成の取り組みが評価されました。

ほうさい大賞「特別支援学校・団体の部」は、「千葉県立香取特別支援学校」です。利根川流域に位置する千葉県神崎町にあるこちらの学校は、洪水ハザードマップで浸水想定区域に入っており、継続的に避難訓練などを実施してこられました。知的障害教育における防災安全教育についてカリキュラム・マネジメントの中で実践されていることなどが高く評価され、見事、ほうさい大賞に選ばれました。

このほか、防災教育、防災活動に質の高い取り組みをされた各校に、優秀賞や奨励賞を始め、URレジリエンス賞、はばタン賞、だいじょうぶ賞、フロンティア賞、そして、継続こそ力賞の各特別賞を授与しました。

近年も全国各地で災害が相次ぎ、私たち一人ひとりが「いつ、どこで起きてもおかしくない」という意識を持つことが、ますます重要となっています。そのような中、これらの取り組みは、まさに次の時代の防災・減災を支える希望であり、地域の未来を形づくる力そのものです。防災・減災の取り組みは、残念ながら一度きりでは根つきません。日々の学びの中で積み重ね、悩み、工夫し、時に振り返りながら、続けていくことで初めて力になります。

どうかこれからも、この学びと経験をそれぞれの地域、学校、家庭で、周囲の方々と共有しながら、防災の輪をさらに広げていってほしいと思います。そして、この場での出会いが、次の取り組みの力となり、全国に新たなつながりが生まれていくことを心から願っています。

受賞校・団体のご紹介

今年度は、47校・団体が受賞しました。

来年度も、更にレベルアップした取り組みのご応募をお待ちしています。



賞	部門	都道府県	学校・団体名
グランプリ	大学生	大阪府	関西大学社会安全学部 近藤誠司研究室
ぼうさい大賞	小学生	宮城県	岩沼市立玉浦小学校
	中学生	三重県	松阪市立鎌田中学校
	高校生	愛媛県	ジュニア防災リーダークラブ(高校生)
	特別支援学校・団体	千葉県	千葉県立香取特別支援学校
優秀賞	小学生	岩手県	釜石市立釜石小学校
	中学生	岩手県	宮古市立崎山中学校
	高校生	宮城県	宮城県気仙沼高等学校
	大学生	京都府	龍谷大学政策学部 石原凌河研究室
	特別支援学校・団体	宮城県	宮城県立支援学校女川高等学園
奨励賞	小学生	徳島県	阿南市立津乃峰小学校
	中学生	宮城県	山元町立山元中学校
	高校生	青森県	下北BOUSAIネットワーク(青森県立大湊高等学校)
	大学生	静岡県	静岡大学教育学部 藤井基貴研究室
特別支援学校・団体	京都府	京都府立宇治支援学校	

令和7年度 特別賞	説明	学校・団体名	
大震災対策賞	来るべき南海トラフ地震、首都直下地震への対策につながる優れた取り組みに贈られる賞です	松阪市立鎌田中学校(三重県)	
URレジリエンス賞	被害を減らすと同時に、復旧までの時間を短くすることにより、社会に及ぼす影響を減らす「レジリエンス(縮災)」という考え方に繋がる取り組みに贈られます	阿南市立橘小学校(徳島県) 球磨村立球磨清流学園(熊本県) 宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校(宮崎県) 金沢大学アメリカンフットボール部EVERGREEN(石川県) 静岡県立富士特別支援学校 高等部3年(静岡県)	
はばたん賞	阪神・淡路大震災以降に被災した地域にエールを送るため、これら地域を対象に被災の経験と教訓から生まれた優れた活動に贈られます	釜石市立双葉小学校(岩手県) 呉市立横路中学校(広島県) 岩手県立大槌高等学校 復興研究会(岩手県)、宮城県中新田高等学校(宮城県) 関西国際大学 学生防災士サークル KUISs BOSAI(兵庫県) 高知県立盲学校(高知県)	
だいじょうぶ賞	安心・安全な街づくりを目指す「だいじょうぶ」キャンペーン実行委員会にちなんだ賞 防犯や街の身近な安全、安心・安全なまちづくりを目指す優れた活動に贈られます	岐阜市立本荘小学校(岐阜県)、牟岐町立牟岐小学校(徳島県) 南あわじ市立沼島中学校(兵庫県) 栃木県立矢板高等学校 農業経営科農業技術部(栃木県) 三重県立紀南高等学校(三重県) 若者防災協議会(兵庫県)、リソース・ネット(東京都) 桜地区自主防災協議会 女性防災隊 桜ずきんちゃん(三重県)	
今年度「テーマ賞」	フロンティア賞	防災教育活動の広がりを促進するための賞 過去に受賞がなかった地域・分野での先導的な取組または初応募の優れた取り組みに贈られる賞です	雲林縣石龜國民小學(台湾) 吹田市立千里丘中学校(大阪府)、茨木市立豊川中学校(大阪府) 光市立浅江中学校(山口県) 神戸学院大学 blik for blik(兵庫県) 神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程 西井穂 研究室(兵庫県) 埼玉県立上尾かしの木特別支援学校(埼玉県)
	継続こそ力賞	過去数年に渡り継続的に実施された優れた取り組みに贈られる賞です	上尾市立今泉小学校(埼玉県)、洲本市立中川原小学校(兵庫県) 盛岡市立河南中学校(岩手県) 福島県立福島西高等学校 家庭クラブ(福島県)、和歌山県立熊野高等学校(和歌山県) 津田新浜地区自主防災会連絡協議会 青少年部 津田新浜防災学習倶楽部(徳島県)

グランプリ

大学生
部門

大阪府／関西大学社会安全学部 近藤誠司研究室

“学び愛”の防災を ～「みんなのぼうさい」を目指して～



近藤研究室は、災害情報論を専門とするゼミナールで、2014年にスタートした。地域防災や防災教育を支援するため、全国各地でメディアを活用した研究調査・実践を行っている。

スローガンは「みんなのぼうさい」。こどもからお年寄りまで、あるいは、障がいのある方や難病患者さんたちと一緒に、都市部や山間集落、沿岸地域、被災地の内外などで活動を共にしている。

わたしたちは、10年を超える息の長い数々のプロジェクトを通して、ただ単に防災の輪を押し広げるような取り組みでは、いざというときの力

にならないことを思い知った。だから、「みんな all people」というイメージを「一人ひとり every-one」に転換して、ご縁があった人たちと学び合う関係性を築くことを大切にしている。愛を持って学び合う“学び愛”の心があれば、防災を人生の中に適切に位置づけられるものと信じている。



ぼうさい大賞

小学生
部門

宮城県／岩沼市立玉浦小学校

あきらめないで 助け合いの輪をつなぐ 玉浦の子

14年前の東日本大震災で甚大な被害を受けた岩沼市玉浦地区。玉浦小学校ではこの経験を踏まえ、震災から今日まで継続して「命の大切さ」を学び続ける防災教育に力を注いでいる。年間11回の避難訓練や全学年での防災学習に加え、総合的な学習では学年ごとに防災に関する課題に取り組み、6年生はその集大成として「未来の玉浦を考えよう」に挑戦。震災を知らない子どもたちは、復興を支えた地域の方から話を聞き、「自助・共助」や「人とのつながり」をキーワードに、魅力ある街づくりを考える。また、姉妹都市・高知県南国市との交流では、防災の取組や考えを共有し合い、児童たちは広い視点でこれからの防災について理解を深めている。昨年度は地域と連携した「防祭」も開催し、地域ぐるみの防災意識向上にもつながっている。

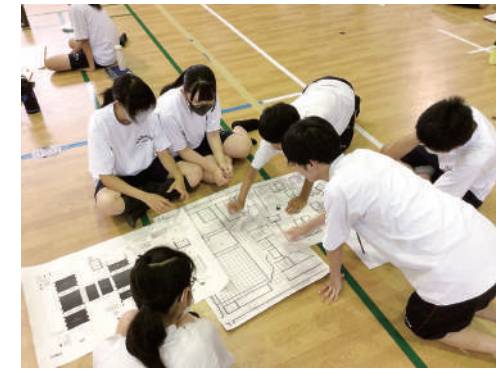


中学生
部門

三重県／松阪市立鎌田中学校 大震災対策賞

地域の防災リーダーを目指して

本校では、総合的な学習の時間に「防災」をテーマに探究学習を進めている。1年生では「歴史ある松阪を災害から守ろう」、2年生では「地域みんなに役立つ防災マップを作ろう」、3年生では「(避難所運営ができる)地域の防災リーダーを目指そう」というテーマを設定し、人権・福祉・キャリアの3つの視点で探究している。中でも、集大成である3年生では、避難所運営ゲーム(Hinanjyo Unei Game)のリアル版、いわゆる「リアル HUG」に地域住民や小学生と一緒に取り組む体験(子どもたちは運営側と避難者側の両方を体験)を通して、自分たちが地域の防災リーダーになるために、どのような力をつけるべきかを模索し、探究を進めている。今年度は、この取り組みを始めて3年目、これまでの反省点を活かして2度のリアル HUG にチャレンジした様子と子どもたちの学びの経過を報告する。



高校生
部門

愛媛県／ジュニア防災リーダークラブ(高校生)

小学生からの継続教育による高校生防災リーダー育成プロジェクト



松山防災リーダー育成センターでは、指導力と実践力溢れる高校生防災人材の育成に取り組んでいる。本プロジェクトの根幹は松山市教育委員会との連携にある。当センターと教育委員会、それと各学校が連携して小学校と中学校の防災教育の内容を決定している。小学校では基本的な防災知識について学び、中学校ではジュニア防災リーダークラブ会員として登録し、マイ・タイムライン授業などを通して地域防災の意識を持つようになる。

松山防災リーダー育成センターでは、指導力と実践力溢れる高校生防災人材の育成に取り組んでいる。

本プロジェクトの根幹は松山市教育委員会との連携にある。当センターと教育委員会、それと各学校が連携して小学校と中学校の防災教育の内容を決定している。小学校では基本的な防災知識について学び、中学校ではジュニア防災リーダークラブ会員として登録し、マイ・タイムライン授業などを通して地域防災の意識を持つようになる。

高校生になると、意識の高い高校生に更に進んだ防災教育プログラムを用意している。各校の



ぼうさい大賞

特支・団体
部門

千葉県／千葉県立香取特別支援学校 地域でたくましく生きるかとりっ子の育成

本校は神崎町に所在し、学区にあたる香取市、成田市、東庄町、神崎町の2市2町にまたがる広域的な防災の推進を福祉や保護者・入所施設と連携して取り組んでいる。また、独創的な取り組みとして、知的障害教育における防災安全教育を、教科教育を中心としたカリキュラム・マネジメントのもとで実践しており、学校提案型による個別避難計画の作成や、特別支援学校へのダイレクト避難の仕組みづくりを進めている。さらに、自主性の育成に向けて、命を大切に、「助けて」といえる受援力の学習を職業・キャリア教育、道徳教育、保健教育、特別活動（生徒会）、職員・保護者等合同研修など、学校の教育活動全体を通じて行っている。そのほか、防災デイ（学校行事）や防災ガチャ（PTA 活動）などの取り組みを続けるとともに、令和6年度からは防災安全コーディネーターと保健給食安全コーディネーターを校務分掌に位置付け、継続的な防災教育の充実を図っている。



優秀賞

小学生
部門

岩手県／釜石市立釜石小学校 自分の命を守る防災意識の醸成につなげる防災教育の深化

昨年度、2008 年から行ってきた防災教育を再考・再興した。これまでの防災教育を深化させて実践していくことが、児童や釜石という地域の未来へつながっていくものと考えている。

今年度は、釜石の地形や土地利用、多様な災害による被害想定、薄れゆく災害への意識等の現状を踏まえ、本校の防災教育を構成している「ぼく、わたしのぼうさい安全マップ」、「改訂版釜石市防災教育の手引き」、「下校時津波避難訓練」、「毎月 11 日の釜小ぼうさいの日」等の取り組みを家族や地域とともに実践した。



「ぼうさい甲子園」の情報を
公開しています



防災教育の力と知恵の広がりに応援するとともに、全国の学校・団体のさまざまな取り組みを紹介しています。是非ご覧ください。

<https://www.dri.ne.jp/research/community/koshien/>

中学生
部門

岩手県／宮古市立崎山中学校 「つながる」宮古の良さを知り、自分たちにできることをしよう！

宮古市北部に位置する本校は、全校生徒 73 名の小規模校である。東日本大震災での教訓を語り継ぎ、地域の防災士や地元の高校生たちとの防災学習を行うなど、防災への取り組みも盛んである。地震・津波に対する防災学習を継続、次世代に継承していく一方で、1961 年に起きた「三陸フェーン大火」にまで学びを広げて、ふるさとの「美しい森、川、海」を守り、誰もが安心して暮らすことのできる崎山の街づくりに「私たちができること」を考え、地域のたて、よこのつながりを広げようと活動している。



高校生
部門

宮城県／宮城県気仙沼高等学校 「東日本大震災復興プログラム」による防災教育の取り組み



本校は H28 年度スーパーグローバルハイスクールへの指定を機に「東日本大震災復興プログラム」として、未来に備える防災・減災教育に取り組んでいる。震災のことを自分の体験として覚えている生徒はほとんどいない。年 3 回の防災訓練、防災士による震災伝承講座、みやぎ鎮魂の日にかかる行事の開催、「世界津波の日」高校生サミット参加など全国の高校生との交流、防災ジュニアリーダー研修会への参加などを行い、震災復興を原動力に、地域を未来へ牽引できる「地域の防災リーダー」の育成をめざしている。

大学生
部門

京都府／龍谷大学政策学部 石原凌河研究室 「一人ひとりが助かる」ための防災教育の実現

本研究室防災教育プロジェクトでは、小学校等を対象に、延べ 40 校以上で防災教育出前授業を 10 年間継続的に実施してきた。これまで学校の先生や地域の方々との「対話」を通じて創り上げたオーダーメイド型の防災教育授業を実施してきたが、今年度からは新たに「一人ひとりが助かる」をコンセプトに掲げ、児童「一人ひとり」が災害に真剣に向き合える授業を展開。災害時要援護者「一人ひとり」に必要な支援を考えてもらう授業等を行った。このような防災教育をこれからも推進したい。



優秀賞

特支・団体
部門

宮城県／宮城県立支援学校女川高等学園

防災教育を地域の生涯学習へ～過去の教訓と学びの関心を一体に～

本校は「地域と共に学ぶ防災教育の充実」を目標に、生徒自身が主体的に実践する「総合防災訓練」の仕組みを確立し、“備えること”、“共に助け合うこと”の大切さを共有してきた。震災の記憶がない世代への「防災を考え続けること」の学びの仕掛け作りには、関心の持ち方を見直し、従来の「総合防災訓練」に加え、過去の教訓に触れる準備段階として、生徒同士で行う「防災企画」を寄宿舎自治会で新たに実施する。



奨励賞

小学生
部門

徳島県／阿南市立津乃峰小学校

世代や地域を超えてつながる、持続可能な日常としての防災教育

本校は、H26年度より防災教育を学校教育の主軸として実践し、3年前より実施している「学校を離れた場所でも自分の判断で安全な行動を取ることを目的とした「休日避難訓練」を実施。今年度はさらに深化させ、地域住民主体の現実的な避難訓練になるよう、学校と地域の自主防災会が協力し、世代・地域を超えてつながるまちづくりとしての防災教育を目指している。



中学生
部門

宮城県／山元町立山元中学校

自助・共助の意識を高め、組織的に本気で防災活動に取り組む



本校は「生徒が自助・共助の考え方を身に付け、防災を通して地域に貢献できる力を育む」ため、総合的な学習の時間や教科横断的な「防災学習」のカリキュラム開発を行った。防災・減災教育を通して「本気で命を守る」という自助の意識を高めるとともに、「地域に貢献する」という共助の力を高めることもねらいとしている。

また、地域と連携して防災学習に取り組むことは、生徒の防災意識だけでなく地域の防災意識の高揚にもつながっている。

高校生
部門

青森県／下北BOUSAIネットワーク(青森県立大湊高等学校)

学校連携での地域防災への取り組み (防災ネットワークの構築)

下北 BOUSAI ネットワークは、青森県下北半島にある、大湊高校、田名部高校(全日制・定時制)、むつ工業高校、大間高校、むつ養護学校の5校が協同して取り組むネットワークである。総合学科、進学校、専門校、特別支援学校という様々な特徴を持つ学校が、自分たちの得意な分野や興味関心をもとに、独自の活動を展開、被災地研修や避難所体験などの共同実施等、緩やかなつながりの中で活動している。スローガンは「防災を日本の文化に・防災を世界の智慧に」。個々人の防災力向上を目標に取り組んでいる。



大学生
部門

静岡県／静岡大学教育学部 藤井基貴研究室

教職を目指す学生を主体とした産学官連携による防災教育の推進

本研究室では東日本大震災を契機に「考える防災」「脅さない防災」「伝える防災」を柱として活動を積み重ね、2024年度より「支える防災」を加えて、学生主体で包括的な取組を展開している。今年度は産学官連携に重点をおいた。地元企業と共同開発した防災総合アプリ「クロスゼロ」は6万5千件以上のダウンロード、「防災検定ソナクエ」は7千件以上の登録となった。これらを活用した静岡県認証プログラム「BOSAI ユースアンバサダー事業」を静岡県、愛知県、宮城県で展開。製薬会社とは感染症予防の紙芝居を制作し、幼稚園、図書館、病院等に提供した。



特支・団体
部門

京都府／京都府立宇治支援学校

全校でつなぐ防災の実践 ～気づきと行動の拡がり～

本校では、「校内の自動販売機は災害時に使用できるのか」「廊下で右側通行が徹底されていないのは危険ではないか」といった、日常生活における安全面への声が生徒からあがり、これを受けて学校全体で環境改善が進みつつある。小さな気づきと行動の変化は防災教育の成果であり、校内の安全文化を形づくる第一歩である。



URレジリエンス賞

小学生部門 徳島県／阿南市立橘小学校
地域と共に学び、実践で育む防災力
～みんなが助かる町づくり～
「自分の命は自分で守る、みんなの命はみんなで守る」を合言葉に、防災紙芝居や新聞作成など児童主体の活動を実践。SDGs の視点から事前復興を学び、地域と連携して持続可能なまちづくりに取り組んでいる。

中学生部門 熊本県／球磨村立球磨清流学園
状況を的確に捉え、判断し、主体的に行動する児童生徒の育成
令和2年7月豪雨を受け3校が統合し開校。防災教育研究推進校の指定を受け、学校・子供・保護者・地域・行政が連携した防災教育を推進。創造的復興を目指し、五者協働で防災力向上に取り組んでいる。

高校生部門 宮崎県／宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校
[デジタル × リアル] で探究する宮崎の防災
「デジタル × リアル」を軸に、地震観測や避難アプリ訓練、住民調査を実施。現地調査中に発生した日向灘地震では率先避難と聞き取りを行い、提案が看板改善につながるなど地域の防災力向上に貢献した。

大学生部門 石川県／金沢大学アメリカンフットボール部 EVERGREEN
大学生と地域がつくる防災 × スポーツの輪
アメリカンフットボール部が地域と連携し、防災運動会を企画運営。担架づくりや心肺蘇生などを競技形式で学び、指定避難所の周知と共助の意識を育み、地域とのつながりを深めている。

特支・団体部門 静岡県／静岡県立富士特別支援学校 高等部3年
みんなで学防災！ ～地域の一員としての共助～
高等部3年間で避難生活を想定した体験を重ね、「守られる」から「自ら守り、地域のために行動する」意識へ成長。ジュニア防災士として福祉避難所訓練にも参加し、自信や防災リーダーとしての意識を高めている。

はばタン賞

小学生部門 岩手県／釜石市立双葉小学校
地域のよさから防災を学ぶ
～自分の命は自分で守る～
毎月の朝学習で防災学習を継続し、学年ごとの学びを積み重ね、6年生で「みんなの命を守るために」をテーマに集大成へ。異学年との交流を図る縦割り班活動も生かし、互いを思いやる心と防災意識を育てている。

中学生部門 広島県／呉市立横路中学校
生徒主体で行う防災教育の取り組み
生徒会主導で防災動画や避難訓練を企画実施。地域の災害特性や避難方法の理解が向上し、防災意識も高まった。保育所・小学校・中学校・高等学校・大学の5教育機関合同での避難訓練に向けた呼びかけも行い、生徒主体の取り組みを推進している。

高校生部門 岩手県／岩手県立大槌高等学校 復興研究会
[人の寿命を超える] 伝承活動
～想像力 × 対話の町歩き～
復興研究会は発足13日目。「記憶のない世代」が震災と向き合い、生徒同士の対話から生まれた町歩き活動を実施。多様な想いを共有し、悲劇を繰り返さないための行動を模索している。

高校生部門 宮城県／宮城県中新田高等学校
[100年続くまち創り]
～学校設定科目・地域防災学の挑戦～
学校設定科目「地域防災学」の授業を展開し、大学や企業、地域と連携。総合防災訓練や研修会を企画し、幼稚園での紙芝居授業も実施するなど、世代を超えた防災の輪を広げている。

大学生部門 関西国際大学 学生防災士サークル 兵庫県／KUISS BOSAI
継続した災害被災地域への支援と被災地域の現状発信
学生防災士サークルとして、能登半島地震後に募金や復旧に向けてがれき撤去、災害ごみの片付け・運搬などの活動を実施。足湯や交流を通じた傾聴活動にも取り組み、被災地の心身両面を支える支援を継続している。

特支・団体部門 高知県／高知県立盲学校
いっぱい歩みを進めて
～避難生活に着目した防災学習～
視覚支援学校として主に地震・津波に関する災害安全について学習を工夫。揺れから身を守る方法やSOSの伝え方、避難所生活まで体験的に学び、地域行事にも参加して連携・共助の輪を広げている。

だいじょうぶ賞

小学生部門 岐阜県／岐阜市立本荘小学校
自分の命は自分で守る！
みんなの命はみんなが守る！
6年生が地域・行政・企業と連携し年間を通じ防災減災を学習。自助・共助・公助を体験的に学び、困っている人に目を向け行動する意識と、地域で支え合う力を育てている。

小学生部門 徳島県／牟岐町立牟岐小学校
タテとヨコの一貫教育による防災教育
保・小・中一貫の「タテ」と地域連携の「ヨコ」を生かし、防災教育で自助・共助・公助の学びを深めている。合同避難訓練や防災学習、町の訓練参加等を行い、6年生は事前復興についても学び発信している。

中学生部門 兵庫県／南あわじ市立沼島中学校
[行動する防災] への変化と成長
離島に立地する本校では、想定される南海トラフ地震に備え、小学校や地域と連携し防災ジュニアリーダーの育成を目指している。被災地支援や島の防災会議参加を通し、自ら考え行動する力を高めている。

高校生部門 栃木県／栃木県立矢板高等学校 農業経営科農業技術部
地域と連携した家畜動物の避難システムの構築
災害に弱い畜産現場を踏まえ、家畜の避難システムを構築。放牧場への誘導で非常時の飼養を確保し、動物と人の命を守る新たな視点から地域の防災意識向上を図っている。

高校生部門 三重県／三重県立紀南高等学校
本校生徒が安心・安全に津波から避難し、命を守る環境を実現する
「防災きキャンプロジェクト+(プラス)」として津波避難の在り方を生徒主体で見直し。避難マニュアル改訂や避難ルート改善、提言、二次避難場所整備を進め、全校津波避難訓練も企画運営している。

大学生部門 兵庫県／若者防災協議会
小児救命処置講習
小児・乳児に特化した救命講習を実施。胸骨圧迫法や人工呼吸法、AEDの実技演習を通じ実践力を養い、保護者や保育関係者へ知識を広げ、幼い命を守る地域の体制強化に取り組んでいる。

特支・団体部門 東京都／リソース・ネット
[キャリア防災(子ども主体の防災の取組)とその他の活動]
特別支援学校を支える団体として、防災訓練や要配慮者移送訓練などに参加。行政や大学等と連携し、福祉避難所の円滑な運営と地域ネットワーク強化を目指して活動している。

特支・団体部門 桜地区自主防災協議会 三重県／女性防災隊 桜ずきんちゃん
人々の命を守り未来へとつないでいく
～いのちをつなぐ防災～
「桜地区を防災に強いまちにする」を掲げ、性別による役割分担意識にとらわれず特技を生かした出前講座を展開。行政ネットワークを活用し、交流でつながりを強化。TV番組で取り組みを紹介している。

フロンティア賞

小学生部門 台湾／雲林縣石龜國民小學
[石] 在防災 平安 [龜] 來
台湾の防災高度学校として、デジタルプラットフォームを活用した災害警報システムを整備し、強風・大雨・地震などに即応。校内避難場所と備蓄も充実させ、地域機関と共同訓練を行い防災ネットワークを広げている。

中学生部門 大阪府／吹田市立千里丘中学校
千里丘中学校支援学級 大ピンチ図鑑(防災編)を作ろう！
支援学級で「大ピンチ図鑑(防災編)」を作成し、想定される困りごとと対処法を子供たちの目線で整理。自己理解と問題解決力を高め、障がいの有無に関わらず命を守る学びを発信している。

フロンティア賞

中学生部門 大阪府／茨木市立豊川中学校
「今日、防災学習やるん？」
特別支援学級「自立活動」で学ぶ防災
 「自立・共生・連帯」を掲げ支援教育を全教職員で推進。特別支援学級の自立活動で防災学習を行い、自分の特性理解と適切に支援を求める力を育成。災害時だけでなく日常の困難克服にもつなげている。

中学生部門 山口県／光市立浅江中学校
浅江探究プロジェクト～BOUSAI編～
 コミュニティ・スクールを生かし「気付き・考え・行動する」力を育成。防災士の講話や施設見学、地震体験等で学び、2年次は避難所運営の課題を探究し、3年次は実践をテーマに取り込み、成果を文化祭で発信している。

大学生部門 兵庫県／神戸学院大学 blik for blik
「つくる防災」～次世代の防災STEAM教育～
 防災教育の「堅苦しさ」や行動化の課題に着目し、レゴと防災を融合。協力企業と三次元振動台を開発し、地震の揺れを再現して家具配置の影響を体験的に学べる仕組みで学習効果を高めている。

大学生部門 兵庫県／神戸女子大学家政学部管理栄養士養成課程 西井穂 研究室
通所介護職員等を対象とした災害時の食支援教育
 要介護高齢者を支える通所介護事業所で栄養ケア・マネジメントをテーマに、ICTで介護職員へ食支援や災害時の栄養教育を実践。今年度は備蓄「粥」の物性を分析し、嚥下に配慮した災害食支援について介護職員等へ教育活動を展開している。

特支・団体部門 埼玉県／埼玉県立上尾かしの木特別支援学校
学校みんなで挑戦！かしの木防災クエスト2025
 訓練の固定化を見直し、団体と連携して防災ラリー「かしの木防災クエスト2025」を実施。クイズやアイテム獲得で主体的に学べ、児童生徒のイラストも活用。親子体験会をはじめ、家庭で防災を身近に感じられる活動を実施している。

継続こそ力賞

小学生部門 埼玉県／上尾市立今泉小学校
今っ子防災隊
～災害に強く誰にでも住みよいまちへ～
 6年生主導で15以上の行政・企業等と連携し、避難所運営やマンホールトイレ、応急手当を学び地域へ発信。児童がイベント出演交渉も行い、防災力向上に貢献。教職員も防災士資格取得や学会発表で防災教育の質の向上に向けて研鑽に努めている。

小学生部門 兵庫県／洲本市立中川原小学校
児童が企画・運営する訓練
～減災・防災へと導く草の根市民の育成
 地震・津波避難訓練を教育課程に位置づけ、6年生が企画から振り返り、5年生へ継承するSTPDサイクルを展開。災害記憶の風化を防止し、自助意識を育み、防災の学びが学校教育全体へ波及し、連携団体へも展開している。

中学生部門 岩手県／盛岡市立河南中学校
ふるさといわてに学ぶ、地域に生きる”ひとづくり”
 本校は洪水被害想定地域の指定避難所として、1年「知る」2年「深める」3年「実践する」の系統学習を展開。被災地訪問、街歩き、マイクラフトによる3Dシミュレーション、HUG体験、小中合同訓練など多角的に学び主体性を育む。

高校生部門 福島県／福島県立福島西高等学校 家庭クラブ
めざせ！防災チェンジメーカー
～マイ防災ポーチのすゝめ～
 洪水・火山噴火に備えR2年から災害対策の研究を継続し、垂直避難訓練や備蓄の運用システム、暑さ対策などを整備。地域へ啓発リーフレットで周知し、地域行事でワークショップも担当。登下校対策として防災ポーチを推奨し普及を図る。

高校生部門 和歌山県／和歌山県立熊野高等学校
フェーズフリーで広がる地域防災
 「フェーズフリーで広がる地域防災」をテーマに、AEDシート配布や商品開発、宿泊体験・避難所設営で実践力を強化。駅や市との合同訓練で避難行動を検証し、授業で備蓄や簡易トイレも探究。植樹活動で環境保全と防災の両立も目指している。

特支・団体部門 津田新浜地区 自主防災会連絡協議会 青少年部 徳島県／津田新浜防災学習倶楽部
地域と共に 未来を拓く 防災学習
 中学校の学習を継承する自主防災会青少年部として発足5年目。OB・OGとともに振り返りを行い、大学生も交え大規模なフィールドワークで約800件を訪問。住民の防災意識向上に貢献し、後輩育成と活動継続に挑戦している。

表彰式・発表会 概要



毎日新聞社提供

趣旨

阪神・淡路大震災の経験を通して学んだ自然の驚異や生命の尊さ、ともに生きることの大切さを考える「ぼうさい教育」を推進し、未来に向け安全で安心な社会をつくる一助とします。児童・生徒・学生が学校や地域において主体的に取り組む、「ぼうさい教育」に関する先進的な活動を顕彰します。

プログラム

令和8年1月24日（土） 人と防災未来センター こころのシアター

13:00	開 会 開会のことば 主催者あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ● 河田 恵昭 (公財) ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター長 ● 齋藤 元彦 兵庫県知事 ● 長谷川 豊 毎日新聞大阪本社編集局長
13:15	表 彰 式	<ul style="list-style-type: none"> ● 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰 (グランプリ・ぼうさい大賞、優秀賞、奨励賞、大震災対策賞、URLシリエンス賞、はばタン賞、だいじょうぶ賞、フロンティア賞、継続こそ力賞) ● 防災力強化県民運動ポスターコンクール表彰 (ひょうご安全の日推進県民会議会長賞、人と防災未来センター長賞)
14:20	発 表 会	<ul style="list-style-type: none"> ● スペシャル・プログラム 国立研究開発法人防災科学技術研究所 特別研究員 上田 啓瑚 さん ● 1.17 防災未来賞「ぼうさい甲子園」受賞校・団体による活動発表 司会：関西大学社会安全学部 4年 山根 奏楽 さん
15:45	講 評	● 河田 恵昭
16:00	閉 会	

表彰式の様子

表彰式は、グランプリ・ぼうさい大賞からはじまり、受賞者に表彰状や副賞が授与されました。

グランプリ・ぼうさい大賞



優秀賞



奨励賞



URレジリエンス賞



はばタン賞・だいじょうぶ賞



フロンティア賞・継続こそ力賞



写真はいずれも毎日新聞社提供

会場展示の様子

会場には、受賞校・団体が作成したポスターが掲示されました。各地での防災学習の成果が一堂に集まり、充実した見ごたえのある空間となりました。



発表会の様子

受賞校の発表に先立ち、スペシャル・プログラムとして、ぼうさい甲子園 OB による講演を行いました。

国立研究開発法人防災科学技術研究所 特別研究員 上田 啓瑚さん



発表会は、グランプリ・ぼうさい大賞、優秀賞を受賞した 10 校のうち、9校が発表を行いました。

発表会の司会は関西大学社会安全学部 4年 山根 奏楽さんが行いました。



グランプリ 関西大学社会安全学部 近藤誠司研究室
"学び愛"の防災を ～「みんなのぼうさい」を目指して～



ぼうさい大賞・大震災対策賞 松阪市立鎌田中学校
地域の防災リーダーを目指して



ぼうさい大賞 ジュニア防災リーダークラブ (高校生)
小学生からの継続教育による高校生防災リーダー育成プロジェクト



ぼうさい大賞 千葉県立香取特別支援学校
地域でたくましく生きるとりっ子の育成



優秀賞 釜石市立釜石小学校
自分の命を守る防災意識の醸成につなげる防災教育の深化



優秀賞 宮古市立崎山中学校
「つながる」宮古の良さを知り、自分たちができることをしよう!



優秀賞 宮城県気仙沼高等学校
「東日本大震災復興プログラム」による防災教育の取り組み



優秀賞 龍谷大学政策学部 石原凌河研究室
「一人ひとりが助かる」ための防災教育の実現



優秀賞 宮城県立支援学校女川高等学園
防災教育を地域の生涯学習へ～過去の教訓と学びの関心を一体に～



司会 関西大学社会安全学部 4年 山根奏楽さんが司会を務めました

※写真はいずれも毎日新聞社提供

